

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開 催 日 時	平成29年8月18日（金）午前10時～午前11時45分
開 催 場 所	清須市役所北館 2階第1・2会議室
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るKPIの平成28年度実績及び一部改正（案）について</p> <p>(2) 地方創生加速化交付金充当事業（清須学推進事業）の効果検証について</p>
会 議 資 料	<p>次第、清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議名簿、清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議配席表</p> <p>【会議資料】</p> <p>資料1 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPIに係る平成28年度実績及び一部改正（案）</p> <p>資料2 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部改正（案）新旧対照表</p> <p>資料3 地方創生加速化交付金充当事業（清須学推進事業）に係る効果検証</p>
公開・非公開の別 （非公開の場合は その理由）	公開
傍 聴 人 の 数 （公開した場合）	0人
出 席 委 員	0人
欠 席 委 員	なし
事 務 局	<p>葛谷企画部長</p> <p>[企画政策課]</p> <p>河口課長、藏城副主幹、杉原係長、石附主査、横幕主査</p>
会 議 の 経 過	<p>1 開会</p> <p>●事務局</p> <p>定刻となりましたので、ただ今より、平成29年度清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開催いたします。</p> <p>私は、本日の進行を担当します清須市企画政策課の藏城です。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、まずお手元の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず1枚目は、次第。つづいて、名簿、配席表。その次に、資料1「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPIに係る平成28年度実績及び一部改正（案）」。続いて、資料2「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部改正（案）新旧対照表」。</p> <p>最後に、資料3「地方創生加速化交付金充当事業（清須学推進事</p>

業)に係る効果検証」の計6種類です。

以上の資料につきまして、不足や乱丁等がありましたら、差替えさせていただきますので、挙手にてお申し出ください。よろしいでしょうか。それでは進行を続けさせていただきます。

それでは次第の「1 開会」に移らせていただきます。

開会にあたりまして、事務局を代表いたしまして、企画部長の葛谷より、ごあいさつを申し上げます。

(あいさつ)

あらためまして、皆様おはようございます。清須市企画部長の葛谷です。

皆様、本日はお忙しい中「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本市の地方創生に関する取り組みをまとめた計画である「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、昨年度の平成28年度に稼動しました。そこで、この推進会議において、総合戦略に位置付けた施策の進捗状況について、検証していただくべく、総合戦略内で設定したKPI項目について、その平成28年度の実績をご報告させていただきます。

また、国の地方創生加速化交付金を充当した清須学推進事業につきましては、この会議において、平成28年度の事業内容について事後検証を行っていただき、その結果を国へ報告させていただこうと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願い致します。

会議の経過

●事務局

ありがとうございました。

それでは、議題に入る前に、今年度から新たに委員にご就任いただいた方を3名ご紹介します。

まず、お1人目は、行政機関の代表としてご参画いただき、愛知県教育委員会文化財保護室室長の安井健治様です。安井委員は、今年度から文化財保護室長にご就任されまして、前任の野村前室長様に代わって、今年度から当会議へご参画いただきます。

続いて、お2人目は金融機関の代表といたしまして、中日信用金庫の新川支店長の江森弘章様です。江森委員には、昨年度までご参画いただいていた中日信用金庫山田理事長様に代わって、今年度から当会議へご参画いただきます。

最後になりましたが、労働団体の代表といたしまして、日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会事務局長で豊和工業労働組合書記長の井水一弘様です。井水委員は、昨年度までご参画いただいていた尾張中地域協議会副代表で三菱重工労働組合名古屋冷熱支部副執行委員長をお務めであった平野様に代わって、今年度から当会議へご参画いただきます。

3名の委員様、どうぞよろしくお願い致します。

2 議題

●事務局

それでは、次第の「2 議題」に入りたいと思います。

議事の進行につきましては、お手元の資料に基づき、まずは事務

局から一括して説明をいただいた後、各委員の皆様から順次ご意見等をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは事務局より本日の資料について、ご説明いたします。

【資料1～3事務局から説明】

●事務局

それでは、例年の取り回し同様、全委員様に2巡にわたり、議題に沿ってご意見をいただこうと思います。

まず、1巡目として、「資料1」「資料2」でお示しをさせていただいたKPIの平成28年度実績及び総合戦略改正について、各委員からおひとりずつ5分程度を目安にご意見をいただきたいと思います。

では、慣例となっておりますが、本日も名簿順にお願いしたいと思っておりますので、山本委員からご発言の方をお願いします。

●山本委員

山本でございます。よろしくお願いいたします。私は、基本目標①に絞って質問しようと思っております。また、この後の2つ目の清須学推進事業と重複する部分もあるのですが、ご容赦いただければと思います。

まず、私の資料の見方が悪いのかもしれませんが、資料1の1ページ目と2、3ページ目の部分です。KPIの状況なのですが、基本目標①で「既に達成済み」が「1」ですとか、Cの「達成できる見込み」の「2」と書いてあるのですが、2ページ・3ページの数字と合致していません。

例えばページ1のKPIのC「達成できる見込み」は、基本目標①で「2」となっているのですが、2ページ・3ページを見ますと、施策②の清須学講座の受講者数のみがCなので、数字のずれが見られるなと思っております。こちら違った書き方なのか、後で示していただきたいと思います。

私の意見としては、清洲城及び貝塚資料館の部分に特化して説明させていただきます。先月に実施されました清須市行政改革推進委員会の委員もさせていただいておまして、そこでも申し上げたのですが、清洲城の来場者数が減少傾向にあります。28年度が7万8千人、一昨年度が8万5千人、その前が8万2千人とありまして、どんどんとすごい減少傾向にあるのですが、どういう打ち手を打たれているのかというのが大きくあります。その中で、コメントにもありました弊社ですとか、安井委員の貝塚資料館との連携とおっしゃられているのですが、具体的なところが見えていないというのがあります。産業課の方が来られていないので、会議録に残して後で確認していただきたいと思います。そもそも清洲城のメインターゲットはどこなのかを確認したいです。

先日、愛知県の安井委員が主催している会議のところでお聞きしたところ、地元の清須市とか名古屋市の西区、それも小学生とか中学生の学生を中心に呼びたいというお話がありました。

弊社、キンビール名古屋工場は、昨年約11万人のお客さんが

来られているのですが、メインターゲットとしては、個人、それから20代・30代のファミリー層ということで絞っているのですが、翻って、清洲城のメインターゲットはどこなのかというのがあります。メインターゲットがなく、どなたにも来てほしいという答えが想像されるのですが、それは経営資源が分散されるので一番よくない答えだと思うので、検討はしていただきたいと思います。

その上で3者が連携するのであれば、あえてターゲットを外してかぶせるのか、それとも同じターゲットにして呼び込むのか、いろいろ変わってくると思います。

KPIでは、貝塚資料館と清洲城ということであれば、地元清須市とあと名古屋市の西区に絞るのか、学生中心にするのか、それとも清須市は別のターゲットにして連携して、逆に掛け算を狙うのか、そういった構成が見えないと達成できない見込みというのが残念ながら実現してしまうのではないかと感じてしまいます。

あともう1つ施策④の外国人入場者数のKPIに挙げられておりますが、こちらもターゲットの外国人がどこの国の人なのかというのがあります。先月の行革会議の中では、タイとかアメリカとかを検討していると産業課長のコメントがあったのを確認できているのですが、昨年の資料でいうと日本に来られた外国人の27%が中国、22%が韓国、17%が台湾、この3か国で6割を占めているのに、なぜタイとかアメリカなのか、よくわからないという部分があります。

そういう意味では、なぜ達成できないのか、どういう風に考えているのか、どう進めていくのかというところが非常に重要なことかなと思っています。

この後どうするのかというのは清須学推進事業のKPIにもかぶっていますので、そちらの方で説明させていただきます。

●事務局

ありがとうございます。山本委員からのご指摘で1ページ目の総括表と2ページ目以降の具体的な達成見込みの不一致な点、私の単純な最終的なチェックミスでございました。大変失礼いたしました。正しくは、基本目標①につきましては、Aの既に達成済み1件、これは正しいです。Bの0件これも正しいです。Cが間違っております、「1」になりまして、Dが「2」、EとFもそれぞれ、Eが「2」、Fが「3」となりまして、これで整合性がとれるということでしたので、大変お恥ずかしいミスで、申し訳ございませんでした。

続いて、清洲城のメインターゲット、今後連携していく上では、メインターゲットの共有が重要ではないかということで、そもそもお城のメインターゲットはどこですかというご質問でございました。こちらの方につきましては、産業課の方と指摘を共有させていただこうと思います。また、外国人につきましては、どこをターゲットにしているのかというところにつきましても、先に行革の会議でもタイ・アメリカと産業課長の方からご答弁させていただいているところですが、実勢に即して言えば、アジア圏、中国・韓国・台湾が主な訪日外国人の層であると、ここをどうやっ

て狙っていくのかという戦略が必要ではというご提言でしたので、こちらの方につきましても産業課の方に情報共有させていただきたいと思います。

昨年度の先行型交付金の検証の中で、説明させていただいた趣旨は、今でも大きくは変わっていないということは確認しております。欧米系を狙った外国語での情報発信というところは、アジアと欧米系では訪日の目的が違うというトレンドがあるという前提に沿って、歴史・文化等に関心があるのが欧米系で、食やショッピングに関心があるのがアジア圏の傾向であるというところに沿って、清洲城はどちらを取り込めばいいか、どちらへの情報発信が足りないかという観点で、主に欧米系を狙うという趣旨で、先行型交付金の外国語の対応をしてきたというところであります。

では、続きまして、安井委員ご発言をお願いします。

●安井委員

昨年出ておりませんので、昨年までの経緯は若干不透明な中で発言になりますけれども、ご了承ください。私の立場は、清洲貝殻山貝塚資料館の所管ということで参加させていただいているという理解で、話をさせていただきます。そういう意味で、山本委員の調べたところと重複するところがありますが、ご了承くださいたいと思います。

まず、文化財ですので、活用と集客を含む観光振興との足し算が肝心なのだと思っております。先ほど山本委員からご紹介いただきました私たちが持っております会議、山本委員や河口課長にもご出席いただいて、いろいろとご意見をいただいております。ご意見やご要望をいただいた中で、資料の2ページにございますように、資料館に関しては、入場者数は増えております。増えている理由としましては、もともと水・木・金・土と日曜日を開館していなかったところを日曜日開館に切り替えたものですから、今、木・金・土・日という開館です。その影響とウオーキングですね。JRさんや名鉄さんがやられる。そのコースの中に入れていただいて、入館していただいた方が多いというところですね。そういうところで増えているのですが、この資料を見せていただいて、目標が達成できない見込みとあるのですが、ご承知いただいていると思うのですが、資料館は新施設の整備を進めるということで、昨年度基本設計、今年度実施設計をやっています。30年度から32年度にかけて実際には工事をして、再開するのは32年度秋以降ということになります。31年度の目標値があるのですが、31年度は9千人あります資料館は0になりますので、この目標値の設定の仕方はまずいのではないかと考えられます。12万人というと、清洲城だけで1.5倍集客しないと達成できないというのは、ここは見直していただいた方がいいのではというところですね。

あと、長期的な目標と短期的な目標ということで分けて考える必要があろうと思いますが、新資料館開館後につきましては、清洲城を始めいろいろな施設と連携していきたいと思っております。歴史ということ、先ほど外国人の欧米系が興味があるとあり

ましたけど、特に日本史の古代から戦国時代といった歴史に関する資料ということで、それを連携させようとする学校教育の中へ入っていくのが大事であろうと思います。人を寄せるということは国内、特に地域の中で、根付かせるということ、実際資料館も全ての清須市内の小学校にお越しいただいております。中学校は一部ですし、周辺の市町村からもお越しいただいておりますので、そういったところをもっと重点化して、さらに戦国時代も学ぶということで、併せて清洲城関連施設も含めて社会見学のコースにさせていただくといいのかと思います。あと、高校も新川高校にご尽力いただいて、総合的な学習の時間に使ってもらっております。そういうところで、小・中・高、合わせて歴史教育というのをやっていただくといいのかと思います。

1点ちょっと気になるのは、清洲城と資料館の間を歩こうとすると、ちょっと危ない道があるんですね。そういうところを早急に直していただくとか、あとは、あちこち見ますと何とかの碑というのがあるんですけど、歴史に関わるいろいろな方が出ているので、誰々生誕の地とか説明パネルを付けながら、ついでに朝日遺跡の重要な物が出たところにもパネル化していただいて、他の市町でやっているのですけども、観光ルートですとか歴史の街、歴史のルートというようなコースを作っていただいて宣伝するのも、1つかかなと思っております。そうするとJRや名鉄もウオークを開催しやすくなるのかなという気がしますので、活性化されると思います。

あと、山本委員がターゲットとおっしゃった中で、我々もキンビールさんと連携をとということでやっているのですけども、確かに一部大人で歴史に興味がある方は連携できるのですけども、子どもは連携が難しい。社会見学で行っていただいて、ジュースだけもらっていただくという選択肢もありますけど、ファミリー層であれば両方可行かなと思います。

この間、塩尻市にある遺跡に行ってきたんです。結構県外ナンバーが多いんです。横浜とか埼玉辺りから結構来ていたんで、宣伝の仕方によっては、外からも来てもらえるかもしれない。朝日遺跡も頑張ってみたいと思います。以上です。

●事務局

ありがとうございました。続きまして、北山委員お願いいたします。

●北山委員

新川高校の北山です。もう既に、山本委員も安井委員も基本目標①に絞ってお話をされたので、あまりいうことが無いのですけども、そもそもこの会議に私が地元の高校の代表ということで、出させていただいた私の想いというのは、今、清須市内から進学してくる生徒は全体の20%弱なんですけども、40%ぐらいが名古屋市、すぐそこが西区ですので便利ということもあるのですけど、自分が高校3年間過ごした学校がどういう歴史や文化があり、地域の人たちとつながりを持てるかという、それを持って卒業させたいというのが始まりで、貝殻山貝塚資料館で勉強しよう。でも

そこに行くなら当然清洲城も行こうという風に広がっていったのがスタートなのですけれども、これで3年目になります。

高校ですので、ある程度生徒たちに、学習する内容も、自分たちで質問を作り、テーマを絞り、調べてということまで追及していただけるんですけども、小中学生の人たちに勉強してもらおうと思うと、清洲城でイベントもされているんですけども、相当マニアックな興味がないと、パパパと見て終わってしまうんじゃないかと。私なんかは大河ドラマの変遷の織田信長を誰がやったかというところだけでも30分間ぐらいじっとしていれるんですけども、小中学生の子たちが勉強するためにはある程度、学校の教員も頑張らなければいけないところで、いろいろお膳立てをしてあげて、体験できるような何か取組が必要なんじゃないかなと思います。小中学校の子たちがかなりそういった経験をしているなら、余計に高校は高校らしい学術的なところへ進めていかなければいけないと思っています。

それから、安井委員が清洲と貝殻山の方の交通のことを言われたのですが、高校はもちろん自転車を使いますので、雨の日はどうしても歩くんですけど、自転車で移動するというのは、すごく時間が短縮できるのですごく便利なんですけど、小中学校はそれはできませんので、そのあたりのところも工夫が必要かなと思っています。

あと、キリンビールさんとの連携ということは言われているんですけど、私の高校の中ではキリンビールへは入っていないんですが、後で清須学講座出てきますけど、残念ながら私昨年清須学講座受けて、最後のキリンビールだけが学校行事で行けなかったんですけど、テキストで読みまして、なぜあそこにキリンビールがあるのかというのに、私はものすごく感動したので、そういうこともキャリア教育のひとつとして高校生には、伝えていきたいかなと思っていますので、何か工夫はできるかなと考えています。

あともうひとつ意見ではないんですが、一番自分が考えているのは、今日の天候もそうですけど、防災のことをすごく心配しております、やっとなら去年から清須の防災訓練、今年も9月2日の土曜日に高校生30名ぐらい参加することができるようにしていただいたんですけど、今年もそうなんですけど継続して、高校生の力というのが地域に使っていただけるように、被災地では高校生に勇気づけられたというのをよく聞きますので、そういうことでもう少しお役にたてたらいいかなと考えております。以上です。

●事務局

どうもありがとうございました。

続きまして、舟橋委員お願いいたします。

●舟橋委員

愛知医療学院短期大学舟橋です。よろしく申し上げます。基本目標①に関してのご意見が多かったので、全般的に意見を述べたいと思いますが、とは言いながら、やはり①がどうしても集中するんですけど。

実は、今回の会議の準備のためにとしまして、先週の土曜日

に貝殻山の資料館に行ってきました。行ったことがないのにいろいろ言えるはずないと思って訪ねました。土曜日に資料館に行つて、それから清洲城も行ってまいりました。そこでの印象を述べさせていただきますが、最初、清洲城に行きました。清洲城に行つたらまず、いつものように下の駐車場に入れて、歩いて上まで上がつて、門を入つたんですが、甲冑の侍が2人ほどいました。暑い中、夏もこれをやるのかなと思つたんですが、最初は目を引くかもしれませんけども、今や時代遅れですよ、ある意味。言い方が悪いですけど。ちょっとネガティブな意見がたくさん出るかもしれませんのご容赦ください。

まず、お城の庭というか砂をひいて盛り上げたりしてまして、そこへ入っていくんですよ。子どもたちが平気で。あれは入つていいところなんですかね。当然入らないのが普通だと思うんですけど。砂が張つてあるところに「進入禁止」の札も何もないんで。子どもが入つていっても、親は平気な顔をして見ている。そういうことがあつて、せっかく箒で掃いて、盛り上げて作つたと思うんですが、せっかくなのでと思つました。それから、入場料を払つて上がっていくのは今回はやめました。左の方へ折れていって休憩所みたいなのがありまして、甲冑を試しに着るようなことをやっていました。子どもが嬉しそうな顔をしてやっていましたけれども、ただ時期が時期なのであまり大勢はいない。それから、モニターが2つありました。モニターが2つあつて、1つはタッチパネルで触ると、いろんなことをやってくれるというはなしが書いてあつたんですけど、いくら触つても何も言ってくれない。右側の常時流れているというはずのモニターは完全に消えていて、何も動いていない。ちょうど係の人が通つたので、聞いたら「いつもは流しっぱなしなのに今日は休みなのですかね」と。「こっちのタッチパネルの方は、触つても全然動かないんですけど」と言つたら、おかしいですねで終わりでした。ということで、入つていた人数はおよそ20人ぐらいですかね。そんな感じでした。

その後、貝殻山の方の資料館に行ってきました。まず入るときにどこが駐車場なのかが分からなくて、開館中と下に置いてあつたところを見て入りました。駐車場というか車を置けるスペースがあつたんですけど、踏み石でステップで貝殻山の方へ向かうところに止めたんですが、非常に深閑としておりまして、非常に静かで、時間が止まつたような印象を受けました。年寄りには非常にいい場所ですね。穏やかな時間が過ごせましたが、私以外1人もおりませんでした。

先ほど聞いて、今設計中ということですが、新しくなるということですので、また新しくなれば変わるかなと思つたのですが。汚いプラスチックのベンチがずらつと並んでいて、座ろうという気はしませんですね。そういうこともあつて、綺麗にされるということですから、いいとは思つんですが。

日曜日を開館することにしたということで人数が増えたのですが、休みが多いので、無理ならしかたがないと思うんですが、知らずに来た人は、月・火・水が休みだとちよつとがっかりしますという印象を受けました。ただ、私1人で中を見られたので、よりゆつたりして出てタバコを一服吸つて、豊かな1日だったなど

思うんですけど。これ皮肉で言っているのではなくて、年寄りには非常にいい1日が過ごせました。

2箇所に行ってそういう印象を持ったということですので、清洲城に関しては、やはり工夫というか企画というか、テレビのドラマでもそうですけど、脚本次第で面白くなるという風だと思うんです。せっかくあんなに立派なお城があって、たったの年間10万人も迎えないというのでは本当に寂しいと思います。

前から言ってますけど、あそこで上がって行って、夏なんか自動販売機で買えばいいんですけど、案内所のところにテナント入らないですかね。喫茶店かレストランか。そんなところ1軒もないと思うんですけど。考えられないですね。だから、城を見たら帰きなさいと言っているだけです。何回も、この場でも意見言いましたけど、テナント募集もやっているような様子もないですし、店があるべきだと思います。そうすれば滞在時間も増えると思いますし、子どもを連れてくる人はやっぱり、お金も落としてくれると思うんですけど、私は理解できないところがあります。すみません。ちょっときついことを言いましたが、私が本当につくづく感じた印象です。

それから、話が①からズレまして、基本目標③の官学連携による介護予防・健康づくりの推進のところで、私どもの短大で、清須市民げんき大学の企画をさせてもらって、最初20人が定員でしたが、50人以上の申し込みがあって、30人に増やしてもらったというのが現状です。もう既にやっておりますが、いろんな体操について、午前中は座学で、午後は全て体操学を実地で訓練する。そして卒業した人は、今度は指導者になってもらうという目標にして、講義を続けています。

何とか好評に思ってもらえるように、頑張ってみなでやっています。

話は変わりますが、市街地整備等の推進ということで、JR清洲駅前のところから、広い道路ができるという話をお聞きしたことがあります。35年、36年にできあがるということでしょうか。実はそこの委員になっている人たちにも聞いたのですが、中々土地柄難しいと。うちの短大の横に道路が2、3本できたら、家がめちゃくちゃたくさん建ったんですよ新しい家が。若い人たちばかり来るんです。信じられないんですけど、道路が2本できたら、この1年で30軒ぐらい家が建ったんですよ。道路を整備すれば絶対街は栄えるという私の昔からの信念で。道路が整備されていない典型的な街だと思うんですねここは。何としても道路整備を早くしていくべきだと思います。そうすれば、ほっといても街は開けると思います。そうすると若者の人口は増える。高齢者の人口比率は減る。そして子どもも増える。それから税金も増える。いいスパイラルに入っていくと私は思いました。

あと、申し訳ないですが、あしがるバスですが、乗ろうという気になるように何とかコースを考えたりとか、何か工夫をしないとただ走っていますよという感じなので。誰か言っていましたけど、ものすごいスピードで走っていく。乗る人が少ないからスピードを上げて走っているのかなと。

やっぱり何か魅力を作らないと、そこに付加価値を付けないと、

あしがるバスをせっかくやっけても。もうひと頑張り。5.6人というのは、ちょっとレベルが問題だという印象を持ちました。話が長くなりました。

●事務局

どうもありがとうございました。続きまして、江森委員よろしくお願いたします。

●江森委員

中日信用金庫の新川支店長の江森です。よろしくお願いたします。私も基本目標①方に重点を置いて、述べさせていただきます。私は意見というよりも、お客さんの方に訪問していますので、その中で、清須についていろいろと語られる方が非常に多いということで、その方の意見を集約する形で述べさせていただきますと思います。

清須については、私も分からないところがありましたので、昨年の夏に清須市内に4店舗支店があるのですが、支店長や職員達で、ボランティアの方にご支援をいただきまして清洲城を中心に散策してまいりましたが、先ほどいろいろ清洲城についてクレーム等ありますけども、建物自体はすごく立派で、ゆっくり1人でも行きたいなと思っているところであります。

入場者数が少ないということですが、地元の方が言うことですね、建物に固執してんじゃないかとよく聞きます。やはり、売りにするのは信長じゃないのかなと、皆さん言います。先日も地元のタクシー会社の方からも話を聞いたんですけども、信長をテーマにして、清須を中心に観光をして欲しいという方がみえます。信長という名前はすぐ食いつく。清洲城では、ちょっとぼやんとするところがあるんですけど、信長という名前は全国的にも知名度No.1で、日本人なら知らない人はいないということで、そういったところで、食いつきが違うのだなと思いました。

名古屋の円頓寺に民泊施設があるそうなんですけど、そこで外国人の観光客を連れて歩く信長ツアーというのをやっているそうなんですけど、そこでは清洲城や岐阜城、万松寺なんか信長ゆかりのある地を回っているツアーだそうです。ということで、やっぱり確かに清洲城も知名度はあるんでしょうけども、信長を前面に出すことで、名古屋に限らず、全国・世界から集客できるんじゃないかと考え、皆さんおっしゃってまいりました。

市内の駅を起点としたウォーキング・自転車・あしがるバスだけで回るのではなく、もっと他地域をまきこんで、先ほど山本委員がおっしゃっておられたターゲットを何にするのかというところで、信長をメインにして岐阜城・小牧山城・桶狭間・万松寺といった信長ゆかりの地をタクシーなんかを使って、他地域とタイアップして回ると。清須だけで考えるんじゃなくて、他地域を含めた観光というのも大事じゃないかと思えます。

私は多治見に住んでいるんですけども、清須に働きに来ていて、清須がうらやましいと思ったのが、こういったお城とか資料館だけじゃなくて、山車というのがあるのがうらやましい。私も毎年山車の方、西枇杷島まつりを見に行かさせていただいているんで

すけど、2日間だけしか見られない。前日宵祭りみたいなことをやってるんですけど、そこで終わって倉庫にしまうんじゃないかと、前に清洲城の方へ並んだというのを聞きましたけども、清洲城の方に常設の施設を展示していただいて、そこに全部置かなくてもいいんでしょうけども、1つ、2つ置いて、期間に交代で、順次展示していくという形にすればいいんじゃないかなと、たくさんの方が言うておられました。

そして清須学ですけども、これ私全然存じ上げておりませんで、今年募集が終わった後に気づいたものですから、応募していないんですけども、ぜひこちらの方も受講したいと思っております。お客さんの中にはマイスターを取られた方もみえまして、その方に聞くと、自慢してみえるんです。やっぱりそういった地元の誇りということで自慢してみえる方も多い、もっともっとこれが発展して。でも、どうしても固定しちゃうというのがあるので、レベルを変えて基礎編とかあると思いますけど、いろんな方が参加できるように形でやっていただければと思います。以上でございます。

●事務局

どうもありがとうございました。続きまして井水委員お願いいたします。

●井水委員

私、豊和工業労働組合で書記長をやっております井水でございます。よろしく申し上げます。

今回初めて参加ということで、お恥ずかしい話、前任者から話をよく聞いてなかったものですから、内容的にはいまいち掴んでいないところがあるんですが、この内容に沿ってちょっと話をさせていただきますと、まず、清洲城と貝殻山貝塚ですが、昨年秋ですかね、ウォーキングを確か清須市さんが主催されて、やられたということで、私どもの会社からも約40名少々参加させていただきました。先ほどの話の中で出てきたんですが、参加者の中に子どもさんも割とみえたんで、ちょうど雨が降っていたんですが、ルートなんですけどちょっと危険なところが多いというところ。設定された道があのだったので、あのルートしかないかなと思うんですけど。ちょうどお城から貝塚に向かうところの道路が通るのも狭くて危ないということで、あとは堤防沿いに春日の五条川なんですけど、ルートの方も検討するとか道路整備にも気を使っていたりとか、いいんではないかと考えます。

観光を誘致するという話の流れにも沿ってるところではあるかなと思うところですけど、道路の整備、そのあたりもきちんとしていただけるということが市民のためにもなると。要望ですね。

あと、観光の点でいけば、今の外に発信するアピール、その辺のところなんですけど、あまりよく見えないという感じを受けるんです。会社に勤務されている方々の話を聞いてみても、あまりピンとこないという声を聞くので、もうちょっとアピールの方法というのも外に向けて考えていただくと、変わってくるかなと考えると考えます。

そしてですね、子育ての関係のところですが、ここに記載されていることは在住の方のことがメインということであると思うんです。会社に勤めていればどうしても、子どもが生まれれば預けるということが出てくるんですけど、在勤の方に対しても、子どもを預かるということとか、考える余地とか制度はあるんですか。勉強不足でいけないんですけど。あるのか、これから作っていくのかというのをお聞きしたいと思ひまして。実際子どもが生まれて、地元で子どもを預ける場がなかなか見あたらなくて、自分が住んでいるところ以外で、会社に来る途中でも預ける場所を探してでも来る方がみえるものですから、もしそういうことが考えるのであれば、会社が存在している市町で受け入れるのを検討できれば、育児の面でも発展性があると思ひます。

あとはですね。防災の関係ですが、会社の中でも防災訓練をやっていますが、清須市さんと企業がタイアップして訓練をやることは、考える余地というのはあるんですよ。一応、災害が起これば、この市の中には大きな会社もあるので、その辺との連携も必要となってくる部分も出てくるのではないかとすることも思うので、考える余地があれば考えていただきたいと思ひます。

つい先だって、尾張中地協の方で防災に関するタウンミーティングを開催して、こちらからも1人出られて、パネリストをやっていたんですけど、地協としてもそういうことは開いておりますので、市としても企業に対する何か検討していただければと思ひております。よろしくお願ひします。

●事務局

どうもありがとうございました。いろいろなご意見頂戴いたしましたありがとうございます。なお、この総合戦略の改正案、本日お示しさせていただいておる案につきましては、今各委員から頂戴しましたご意見と数値のご指摘をいただいた点も含めまして、今後、本市の幹部で構成しております本部会の方に諮らさせていただく流れになります。その際に今頂戴したご意見も踏まえて、改正案の方を直させていただくところは直しまして、本部会開催後に、各委員には改正案をお知らせさせていただきたいと思ひます。

それでは、続きまして、2巡目になりますが、「資料3」でご説明をさせていただきました加速化交付金充当事業の効果検証について、お一人5分以内を目安にご意見をいただきたいと思ひます。

なお、こちらにつきましては、国の地方創生加速化交付金を充当事業については、外部委員組織で事後検証を行う必要があることから、当会議におきまして、その検証を行うという趣旨でご意見をいただきたいと思ひます。

また、いただいたご意見の概要は国から示される書式にしたがって、8月中に国へ報告させていただく予定ですので、また、山本委員からご意見をお願ひします。

●山本委員

山本でございます。ほぼ、先ほどの続きになるんですけども、

安井委員からお話がありましたが、平成31年に12万人を目指すということですが、資料館が休館しているというところです。前年にデスティネーションキャンペーンが愛知県で行われますので、その反動も出てきます。ですので、12万人から資料館が休館している分を引くということではできるとは思うんですが、デスティネーションの反動に対して、どのような対策を打つのかということが重要になってきますので、そちらの方もご検討をお願いします。

次がですね、連携の部分なんですけども、行革会議でも愛知県の会議でも出たんですが、交通手段の問題があります。舟橋委員の方からも出たように、あしがるバスの有効利用というものもあるのですが、いわゆるお金をもらうバスに関して、ルートを変えたりいろいろやるのが、すごく大変だと伺っておりますので、それであれば、イベントの時だけでもマイクロバスを使ったらいいんじゃないかという風に思います。

なぜ思ったかといいますと、私今年の6月、7月に北名古屋市さんで講座をさせていただきまして、その時にお話していると、北名古屋市さんはマイクロバスを持っているので、そういった市民講座を開いたりイベントをやる時は、そういうバスを使っているという話がありました。こういうのであれば、小学生全クラスとまではいかないですけど、1クラスずつ例えば日を変えて招くということも可能だと思いましたが、お金を取らなければ特にめんどくさい申請とかいらないので、そういうのはあるのかなという風に思っております。同じような規模感の北名古屋市でできているので、清須市でできないというのは何の問題か分からないですが、やろうと思えばできるんじゃないかなと思っております。

あともう1つこれは話がそれるんですが、北名古屋市さんで講義をするときに、ビールの話なのでビールの試飲を交えて話をさせていただいたんですね。実は清須市さんの講座で飲酒を伴う場合、ちょっとやめて欲しいですとか、清須市の図書館さんでやった時は、わざわざ屋外まで出て、また講義をするために中へ戻ったりですとか、清須学講座も最後工場見学が付いているんですが、工場見学は講座ですが、試飲は任意ですという言葉遊びみたいなことをされています。確かに飲み会をやるというのは問題だと思えますが、テイastingまで排除するという、北名古屋市さんは全然問題ないと言って、なぜ清須市さんは問題なのかということを確認したいなと思っております。

あと、最後に3つ目ですが、先ほど井水委員の方からもありましたが、アプローチが弱い、見えないというお話がありましたが、私どもそうだと思っております。再三ご指摘ありますが、何かイベント行う際には必ずリリースを作ってやるということが重要です。

先月ですが、清須市立図書館さんに「日本一ビールに詳しくなるための図書コーナー」を作りまして、こちらは産官あと近くの、北名古屋市の名古屋芸術大学の先生あるいは学生に作ってもらったので、産官学の連携だという風な形でいったところ、かなり多くのマスコミが来ていただいて、テレビ含めてすごく報道されました。さらに言いますと、共同通信社とか時事通信の記者も来ていただいて記事化していただいたので、本当に全国津々浦々

の地方紙に載りまして、河北新報にも載ったので、仙台工場の人間から連絡が来たりですとか、弊社の工場長の自宅が仙台にあるので、河北新報に載った工場長を見て奥さんから連絡があったりとか、そういう波及効果が出ていると思います。

さらに、たまたま今日の毎日新聞を見てると、4面に夏休みの自由研究という記事が出たんですけど、その中で弊社が10工場で小学校の夏休みの宿題の自由研究に対するイベントをやりますというのが記事になってます。その中で記事を読みますと、キリンビールとキリンビバレッジが8月末まで愛知県清須市や横浜市など全国10工場でということで、清須市さんの名前が先に出ているんですね。これは工場で対応しているわけではないので、どういった経緯なのか確認できていませんが、こういう活動を続けていくことによって、清須というブランドが外に出て、清須というブランドが出ているんだと市民が見ることによって、さらに本来の目的であるシビックプライドに返ってくるんじゃないかなと思っております。

そういった意味では、清洲城と資料館との連携ということなんですが、連携して何かイベントを打つ時は、ぜひとも共同のリリースを3者で打って、県と市とあと民間の連携というのは、調べていただいてマスコミは「初」とか「最大」とかそういうのが好きなので、県と市と民間との連携が初めてなのであれば、初めてのとりリリースすると集まってくるのかなという風に思っております。以上でございます。

●事務局

ありがとうございました。では、続きまして、安井委員よろしく申し上げます。

●安井委員

失礼します。先ほどちょっと言い忘れたことがありまして、防災の関係なんですけど、消防団員の状況ですけれども、女性は入ってみえるんですか。女性が入っているところも結構あちこちありますので、女性も入るといいのかなと思います。検討いただけるといいと思います。

今の報告の関係のことですが、清須学の講座とマイスターの件でございます。うちの職員も講師に使っていただきまして、朝日遺跡や資料館のPRをさせていただき、感謝しております。ありがとうございます。

資料2でですね、課題のひとつとして、マイスターの活用方法が挙げられているんですけども、認定された方々を今後どのように活用されるのかご予定はあるのでしょうか。今資料館では色々何かやる際にはサポートの方や公開ボランティアの方に大変お世話になっておりまして、特に職員だけでは対応しきれない部分をお手伝いいただかないと、イベントができない状態になっております。

シビックプライドの醸成ということがあるんですけども、地域に根差した人づくりとかまちづくりに繋がるとは思いますけど、将来的に観光振興を図って、それが功を奏して観光客が増えた際には、

おもてなしを担当する人が必要になってくると思いますので、せっかくマイスターに認定されたらそういう方を活用できるあるいは、受験される時に今後どういう風にしていかれるのかということに気にして、それを伝える方法で活用に結びつけられるといいのかなと思います。

●事務局

ありがとうございます。今、安井委員からお話のあった2点について、お答えさせていただきますと、まず消防団のお話ですが、条例上女性の入団を排除しているものではありませんが、現状として、女性の団員がいるかということ、今はないというところでございます。

また、マイスターの認定された方の活用方針というとおかしいですが、そういった方々におもてなしの担当として入っていただくような仕組みづくりにつきましては、確かにそこが課題であると思っております。

現状、講座の中でそういったボランティア活動の団体がある、その方々がPR活動する場があるですとか、直近28年度末に行った認定のお知らせの中に、観光協会の事務局長でもある産業課長の団体への入会斡旋のお手紙を添える形で、団体への入会に向けたチラシですとか申込用紙をご案内させていただくとかいうことは機会をとらえてやらせていただいております。

以上でございます。

では、続きまして、北山委員よろしく申し上げます。

●北山委員

清須学講座、昨年6分の5出席しまして、一応修了証をいただきました。でも、検定は受けておりません。今年も8に増えましたので、昨年と違う部分もテーマが増えておりますので、そういったところに行きたいと思ひまして申込みまして、まだ2つしか出れていないですけども、私はっきり言ってリピーターですけど、どのくらい去年受けた人がまた今年みえるのか分かりませんが、固定化されていくんじゃないかなという、ちょっとそういう感じを受けていたので、先ほども江森委員が言われたように、継続するためにはやっぱり工夫が必要だろうなという。

内容もかなり難しいですね。マイスターを養成するというのがありますので、高校生でもよっぽど好きな子じゃないと付いていけないかなというぐらい専門的な話もありますので、少し先ほど基礎編といわれたんですけども、講座の工夫というのが必要なのかなと、受けながら感じていました。

ただ、昨年テキストを作ってくださいだったので、学校の総合的な学習の時間、クラスにいただくことができましたので、生徒の学習には、本当にありがたいなと思っております。以上です。

●事務局

ありがとうございます。続きまして、舟橋委員よろしく申し上げます。

●舟橋委員

残念ながら私は、なかなか都合がつかなくて、清須学講座受講しておりません。

資料を読んで感じたことですが、検定合格者が受験者が34名で合格者が9名であったと。あと推薦が15名と。この推薦というのはどういうことか後でお聞きしたいのですけど。

受験合格者よりも推薦合格者の方が多いというのはちょっと違和感を覚えました。普通パッと見ると人数増やしているだけじゃないかと言われてしまうので。逆ならいいんですけど、ちょっと人数の内訳が違和感を覚えました。

それからやはりリピーターが6割弱ということだと、非常に限られた人のプライドを増強するということになってしまうおそれがある。新規開拓するということをもう少し心掛けないと、同じ人ばかり来て、その人だけプライドを持ちちゃって、力んじやうということでは困ると思うんで。

一方で、プライドだけを持ってダメで、その人たちはやはり清須市の観光などに役立ってもらい、先ほどからいろいろ意見が出ていますけど、ボランティアというのが一番関わりやすいんですが、その人たちの活用方法というのはやっぱり、工夫しているんなどころで活躍してもらわないと、プライドは醸成しないと思うんですね。取ったというだけではいけないと思うんです。ぜひそういう風をお願いしたいと思います。

貝殻山の資料館ですが、こちらは弥生式の土器がいっぱい、私は少ない夏休みを取ると、蓼科の方へ行きます。あちらに縄文式の土器の立派な資料館があります。去年、行ってきましたけど、立派ですね。ですので、資料館に入りたくなりますね。ということがあって、そういう他のところともいろいろ、安井委員が中心になって工夫されているとは思いますが、行きたくなるように、そして途中で、古墳の案内が道路にも大きな標識がいっぱいあります。地図がなくても行けました。そういうことが必要じゃないかと。

先ほども言いました清洲城のモニターが全然作動していないということはWi-Fiなどいろいろやっても、魅力を発信していないということなんですよ。モニターが全然動いていないと。それでは、アピールしているとは言えないと思うんです。

やはり、PDCAサイクルを回すと後ろにありますけど、PDをやって、チェックして、やっぱり検証したら、その検証後のアクションが必要だと思うんですね。だから、検証したら、まとめた必要な部分だけをピックアップしてアクションを起こさないといけないという風に思いました。

●事務局

どうもありがとうございました。

すみません。舟橋委員のお話にありました推薦者のマイスターの合格者のお話であります。まず、推薦の制度がなぜできたかと簡潔にご説明すると、検定試験を通らなくても既に、シビックプライドを十分発揮して活動している個人や団体は当然あるだろうということで、この清須学での推進会議の中でも、ご議論いただ

いたところではありますが、既に活動している団体の方、個人の方をちゃんと拾い上げて、そこでマイスターの認定をするという一定の基準を超えた方については、そこを審議の対象としていいんではないかという視点で、講座から検定を受けた方とは別ルートの既存の活動をきちっと取り上げていくという仕組みがいるという観点で、清須学推進会議の方での委員の推薦をもって、この会議の中で審議をした上で、了承を得られれば認定をしていくという仕組みを設けたところが、まず推薦制度ができた趣旨です。

初年度の内訳が、結果として検定の合格者よりも推薦者の方で通った方が多かったというのは1つの事実でございますので、違和感というところにつきましては、こういった事実で説明するしかないというところですが、初年度につきましては、ある程度推薦の対象となるであろう団体のところはお話をした後ですので、今後、推薦枠の中で、どれだけ出てくるかというところはまだ全く分からないところですが、おそらくこのトレンドは今年度以降、通常の検定の合格者の方が多くなるのではないかなと、生涯学習課の現在やっている担当レベルでは思っているところではございます。

検定試験が難しかったというご意見なんかも聞いておりますので、この難易度の設定、委員からもご指摘いただきましたように、何級という設定を改めてしてやっていくのがいいかどうかというところは、今後清須学の方の推進会議でご議論の上、認定の仕組みというものは、再度検討していく必要があるのかなと。そこは所管課の方も課題は認識しているところでございます。

●舟橋委員

名前とか団体を公表するというのはやっているのですか。

●事務局

認定者の方を広報紙なんかで公表するということは、いたしておりません。認定するための会議につきまして、この清須学の会議は年間4回やったわけですけども、年度末の4回目の会議で認定をさせていただいたんですが、1つのリスクとして、取り上げた方をある特定の意見の方で、落ちてしまったという可能性としてはありうるところで、会議は個人を特定するという個人情報を取り扱うという観点で非公開とさせていただいたので、この回の審議は非公開でやらさせていただいて、清須学推進会議の中でご議論いただいたというところであります。

●舟橋委員

個人の受験者の中で合格した人の名前は別だと思うんで、ただ推薦で、団体とか推薦した場合は、被推薦者の同意を得ますよね、たぶん。だからそちらは載せてもよさそうな気がしたので。ちょっと意見だけです。

●事務局

ありがとうございました。続きまして、江森委員よろしくお願ひします。

●江森委員

いろいろとご意見もあると思いますが、始まったばかりであると思いますので、いろいろな課題を克服しながら、1歩1歩進めればいいんじゃないかなというのが私の正直な意見でございます。やはり拙いところはいっぱいあると思いますので、それを1つずつ解決するというのが第1だと思います。その辺を皆さんご理解いただいていると思いますので、そういった形でこれから発展してもっともっと清須が大きな街になっていただきたいという風に思っています。

今の時間は効果の検証ということなんですけど、私個人的に市事業としてマラソン大会を主催できないのかなと思っております。私自身年間で4、5回ぐらいフルマラソンを走っておりまして、北名古屋市の大会にも去年参加させていただきました。ただ、こうした大会が清須にないというのは非常に残念に思っています。コースとしては川沿いの、3本川がありますので、景観としても清洲城やそういったところを通りながら、走るというのは非常にかっこよいPRになるのかなと思ってございますので、フルマラソンをここでやってくださいとは言いませんので、5キロ、10キロで構わないと思うので、せっかくこの河川敷がありますので、交通規制も最小限に抑えられると思いますので、そういった企画もでてくれればなと期待してご意見とさせていただきます。

●事務局

ありがとうございました。続きまして、井水委員お願いします。

●井水委員

ちょっと重複することばかりになってしまうかもしれないですけど、個人で受けられている方は好きでというか趣味でという方が多いんじゃないかなという風に思うんですけど、先々ですね、観光とかイベントとかで参加していただくことを視野に入れているのであれば、そういった方向でのという線引きも必要なんじゃないでしょうか。

個人で受けられた方に協力を求めてもなかなか私やりますという方は少ないんじゃないかなと。個人で趣味的に受けられる方、また、あとはボランティアで活躍したくて受けられるという方の線引きといいますか方向性を示しながらのマイスター制度も必要になってくるんじゃないかなという風に思っております。

以上です。

●事務局

各委員から貴重なご意見を頂戴いただきましてありがとうございます。では、本日議事は、これで終了ということになります。先ほどもお話しさせていただきましたように、総合戦略の改定につきましては、本部会に諮らせていただきまして、改正させていただきたいと思っております。

2点目の交付金事業に対する検証につきましても、いろいろのご意見を頂戴いたしましたので、その意見を取りまとめさせていただきます。国の方に検証の方を報告させていただきたいと思

います。

総合戦略に基づく施策を着実に推進し、成果を上げていくためには、本日のように事業の効果等を検証することが重要だと考えております。

来年度もこのような形で、総合戦略に位置付けた事業の前年度実績を検証していただく予定でございますので、引き続きよろしく願いいたしたいと思っております。

それでは、以上をもちまして、平成29年度清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を終了させていただきたいと思っております。

皆様、長時間に渡りまして貴重なご意見頂戴しましてありがとうございました。大変お疲れ様でございました。

ありがとうございました。